

2018年5月20日

## 福音書からのメッセージ

イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」

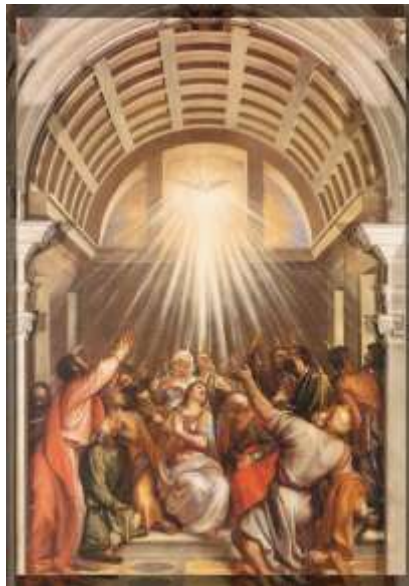
(ヨハネによる福音書 20 章 21 節)

今日は聖霊降臨日(ペンテコステ)です。イエス様が復活されて50日後、約束された聖霊が降ってきた日を覚えてお祝いします。諸外国では復活日、クリスマスと並ぶ三大祝祭日として祝われることが多いようですが、日本ではそれほどメジャーではないようです。

その一番の原因として考えられるのか、聖霊降臨という出来事の分かりにくさなのではないでしょうか。聖霊っていつ、どのように与えられるのだろうか。聖霊を受けたらわたしたちはどうなるのだろうか。いろんな言葉で話すことができるようになるのか。はたまた罪を赦す力が与えられるのでしょうか。

そもそも、神さまとイエス様と聖霊の違いすらよく分かりません。頭で理解しようとしても、それは無理なのです。もしも今、イエス様が目の前に現れて息を吹き掛けられたとしたら、また頭の上に炎のような舌が現れたとしたら、「ああこれが聖霊か」となるかもしれません。しかし目に見えるような形は現れないのです。

目に見えない。でもその存在を信じる。とても難しいことです。しかしわたしたちは日々の生活の中で、聖霊の働きを知らず知らずのうちに体験しているのではないのでしょうか。「何だか知らないけど、お祈りしていたら心が落ち着いた」、「辛かったけど、何だか温かいぬくもりを感じた」、「ふと気づいたら、自分の歩む道が備えられていた」。それらの小さな出来事が神さまの導きによってなされたものだとした



ら、それは聖霊がわたしたちに働いているということなのではないでしょうか。

聖霊は人々の間に働いて、教会が生まれました。しばしば聖霊降臨日は、教会の誕生日だともいわれます。ヨハネ

福音書の聖霊降臨の場面は、教会とはどういふところなのかを伝えているのかもしれませんが。イエス様は弟子たちに息を吹き掛けられます。息を吹きかけるとは、命を与えることです。イエス様は弟子たちに新たな命を与えられました。そして言われます。「だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。」と。

つまり弟子たちに課せられた使命、それは「赦し」です。つまり互いに赦し合うために、教会は存在するのです。イエス様も赦してられました。どんなに罪を重ねようとも、どれだけ裏切ろうとも、何度言っても正しい道を歩むことのできないわたしたちを、赦し、招いて来ました。

だから教会も、お互いに赦し合うのです。自分の力で赦すことができないときは、神さまに赦しを願うのです。「わたしたちの罪をお赦してください。わたしたちも人を赦します」、主の祈りのその言葉のように、教会が神さまの愛を伝える場所であるように、お祈りしたいと思います。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>